

「ガラガラにっポン」のめざすもの

目黒区 原 暁美

ガラガラにっポンが結成されてから、早くも2年の月日が流れました。私たちは、「一度きりの人生を自分らしく輝いて生きたい」と思っている女性達の集まりです。「平成維新憲章」に賛同し、「2005年、平成維新の実現」を誓い、今ニッポンの抱えている問題点を一人でも多くの人々に気づいてもらうため「気づきのメッセージ」を送っています。

この2年間、世の中は私たちが思っている以上に速いテンポで、変化を求め始めているような気がします。そして今、多くの人々がそのことに気づき始めているのではないのでしょうか。昨年1年を振り返ってみても、住専不良債券処理問題、オウム裁判、矛盾だらけの小選挙区比例代表制度による選挙、官官接待、空出張問題、そして、極め付けは厚生省官僚と業者による汚職事件、その他、毎日の新聞紙面を飾る記事を見ても、私たちガラガラにっポンのメンバーは、ニッポンの将来に、危機感を感じずにはいられません。「2005年、平成維新の実現」と、のんびりしてられないような胸騒ぎさえ感じます。

では、私たちに、いったい何ができるのでしょうか？ 私たち一人ひとりの力では小さくて何も出来ませんが、もしたくさんの同じ気持ちの人々が集まったらどうでしょうか？ それはかなり大きな力となり、「ニッポンのシステム」をガラッと変えるくらいの力にもなるかもしれません。

今、私たちに出来ることは「シカタガナイ」と諦めることのない「強い情熱と高い志」を持つこと。夢を明確に描き、夢実現に向かって飽くなき努力をすること。そして少しずつでもいいから、「実績」を残すことではないのでしょうか。

ガラガラにっポンの今後の活動方針は、会員の拡大（平成維新の会以外の人）、他の市民活動グループとの協力、都議会議員選挙の候補者の応援、資金づくりと会の宣伝を兼ねてリサイクルバザーへの参加、メンバーそれぞれが経験したこと、勉強したこと、実行したことを報告しあいより多くの知識を深

めてゆく。そして近い将来、生活者である私たち国民の手に政治を取り戻し、本当に豊かさと安らぎを実感できる国「ニッポン」になるよう少しずつ努力をしてゆくことです。

今、私たちは戦後半世紀に及ぶ技術の進歩、経済成長と引き換えに失ったものの大きさに気づかなければなりません。私たち日本人の心は、経済成長と反比例するかのようになり、重い心の病にかかっているような気がしてなりません。オウム真理教の問題を始め、政治家や官僚の犯罪、子どものいじめや自殺、これらは、「社会の構造が悪いからだ」とか、「個人のモラルの低下」とか言われていますが、そればかりではなく、長い年月をかけて積み重なったストレスによる心の病によるものではないかと感じます。

私たち人類が本来の人間性を呼び戻すためには、「自分とは何なのか、この世に存在する意義は何なのか、一度きりの人生をどう生きたいのか」を個人個人が明確にし「自分は自分で他人と違っていいのだ」と確信することから始まるのではないのでしょうか。

戦後、私たち日本人は、他人のことは構わず自分の利益ばかり考えて働き、そのことが他人を傷つけるだけでなく自分自身や、愛する家族をも傷つけてきたことに一日も早く気づかなければなりません。長い時間をかけて身についた私たち日本人の価値観は一瞬で変わるわけは無いでしょう。だから、早くスタートしなければ「21世紀のニッポンは危ない！」そんな気がしてなりません。

最後になりますが、国のリーダーシップをとる政治家に期待することは、行政改革を本気で実行する「情熱と勇氣」です。私たちは、「明確な国家目標を持ち」、「常に国民の方を向き」、「国民の平和と幸せのために奉仕する」、そんな人々を全力で応援してゆきます。

ガラガラにっポンは、引き続き「気づきのメッセージ」を発信しつづけます。